

丸森ひまわりこども園（宮城県伊具郡丸森町）

職員数：36 名 在籍園児数：130 名（令和4年2月時点）

【子育て支援事業】

2019 年より丸森町の地域子育て支援拠点事業を受託。翌年のコロナ禍でも子育て支援が途切れないよう、独自に屋外での散歩や工作キットの配布を考案・実施している。

- ・「丸森ひまわり子育て支援センター（地域子育て支援拠点事業）」での支援室開放（地域の親子が交流する場の開設、交流の場での情報提供・相談支援事業）
- ・「丸森ひまわり子育て支援センター（地域子育て支援拠点事業）」での一時保育（一時預かり事業（施設型））
- ・電話相談（家庭への情報提供・相談事業）
- ◆年間利用者数：支援室開放：合計約 2,900 名、一時保育：42 名
- ◆財源：丸森町の地域子育て支援拠点事業の委託金を活用

子育て支援事業の内容

●「丸森ひまわり子育て支援センター（地域子育て支援拠点事業）」での支援室開放

【概要】

日 時	毎週月～金(9:30～12:30／14:00～15:00／15:00～16:00 の 3 回に分けて開放) ※土曜日は月 2 回開放。しかしコロナ禍の影響を受け、月 1 回に減らすなど変動あり
場 所	丸森ひまわり子育て支援センター(丸森ひまわりこども園舎内／園の保育室とは別)
担当職員	子育て支援事業専任担当の幼稚園教諭 1 名
対象者	丸森町在住の 6 歳児以下の乳幼児・保護者 (未就園児のほか、他幼稚園に通う幼児の利用も可能) (小学生以上は、コロナ禍以前は乳幼児のきょうだいのみ利用可／コロナ禍以降は不可)
利用登録	必要
園や職員の役割	親子が自由に遊べる場や交流の場の提供、利用者から希望があった際のサポート、工作キットの制作(コロナの際は園外活動の企画・実施)

- 地域子育て支援拠点事業として、丸森町在住の乳幼児（6 歳児以下）・保護者に、園内の支援室を開放している。

【取り組む上での工夫】

保育教諭が常駐し、子どもの安全や保護者同士の交流を見守る

- 子育て支援事業専任の保育教諭が支援センター内に常駐し、子ども・保護者が利用する上で困った際にサポートに入れるよう、見守る体制を取っている。
- 子どもたちがのびのびと元気に遊んだり、安全に遊び楽しむことができる場所となるよう、玩具の消毒や安全確認を一日数回行っている。また、親同士が交流や情報交換したりして気軽に過ごせる場を作り、安心して子育てできるように支援している。利用者同士が交流するようにすすめることもある。
- また、室内だけでなく園庭で遊べるように、在園児が園庭で遊ぶ時間と調整し、園庭開放も行っていた（コロナ禍以降は休止中）。

【現在に至るまでに克服した課題とその対応策】

感染対策に十分配慮し、コロナ禍においても支援室をできる限り開放

- コロナ禍での緊急事態宣言下は、支援センターも休園した。しかし、丸森町は子どもが遊べる施設が少なく、保護者からも遊び場を求める声が上がっていた。
- 同園では支援室開放以外に子育て支援が出来ないかと考え、「丸森のいいところ探し」と題し、現地集合・現地解散で、親子での散歩や地元私鉄の駅舎見学などを実施。
- そのほか、家庭で作れる工作キットの配布を行った。工作キットは季節行事に合わせ毎月用意し、家庭で気軽に作って遊ぶことができ、且つ子どもがケガをしないようステープラではなく両面テープを使用するなど、安全面を考慮したものを作成していた。
- 支援室開放の再開後も、子どもが安心して遊べるように玩具の消毒は入念に行っている。コロナ禍で家にこもりがちだった保護者から「消毒の行き届いた玩具と部屋で安心して遊べる」「外に出ることができることで孤独感が解消できる」という声も挙がっている。
- 再開後の支援室は限られた時間・人数での利用になってしまうため、帰宅後の遊びも支援できるように工作キットも引き続き配布をしている。



コロナ禍でも子育て支援をしたいと考え、地域のお散歩を楽しみ、電車を見に行きました



地域の自然公園でおさんぽや、浅い川での水遊びをしました



地域のりんご園でりんご狩りをしました

●「丸森ひまわり子育て支援センター（地域子育て支援拠点事業）」での一時保育

【概要】

日 時	毎週月～金(7:30～18:30)(終日／午前／午後の3種類)
場 所	丸森ひまわりこども園の一室を使用
担当職員	一時保育専任担当の保育教諭1名
対象者	丸森町在住の未就園児
定 員	1日2名まで
保育料金	0・1・2歳児:1日2,200円、半日1,100円 3歳以上児:1日2,000円、半日1,000円
利用登録	必要
園や職員の役割	場所・保育の提供

- 登録制。保護者が、一時的に保育をできない時（例：仕事、病気療養、子育てのリフレッシュなど）に園で子どもを預かる。就労の有無などの条件設けていない。

【取り組む上での工夫】

一時保育の子どもと在園児と一緒に遊べる機会をつくる

- コロナ禍前までは、同年齢の子どもと遊べるよう、園の保育室に移動し在園児と一緒に遊ぶ時間も作っていた（コロナ禍以降は感染対策のため実施なし）。



一時保育のお友達と水遊びを楽しみました

【現在に至るまでに克服した課題とその対応策】

保護者が安心できるように、コロナ禍において換気や消毒等を徹底

- コロナ禍以降は、感染を気にする保護者も増えている。
- そこで、園全体で感染対策には気をつけて行っている。換気や消毒等を徹底し、保護者が安心して預けることができるように注意している。

子どもの好みを聞き取り、家庭的な雰囲気を作る

- 未就園児を預かる際は、親子に安心して利用してもらえるよう、事前に子どもの好きなおもちゃや遊びを聞き準備している。
- また、家庭にいる時と同じようにゆったり楽しく過ごすことができるよう、家庭的な暖かい雰囲気作りを大切にしている。



園の室内遊具で、体を動かして遊びました

子育て支援事業を更に充実させていく上での課題・要望

- コロナ禍以前は、子育て支援センターの支援室開放にて、お楽しみ会や外部講師を呼んだ子育て講座の開講を検討していた。しかし、感染拡大を考慮し、現在の親子での遊びや保護者同士の交流に留めている。
- 保護者からは催し物の開催を望む声もあり、感染対策を取りつつ実現したいと考えている。
- 現在は、支援室開放は感染対策で予約制となっているため、その時行きたいと思った保護者の期待には応えられていない。同園としても、時間・人数制限を徐々に取り除きたいと考えている。

子育て支援事業と地域子育て支援拠点事業の連携状況

- 同園の運営主体である社会福祉法人内で、もう一か所丸森町の地域子育て支援拠点事業を運営している（丸森たんぽぽ子育て支援センター／丸森たんぽぽこども園内）。両園担当者は、コロナ禍での親子での散歩や工作キットの企画の相談を行っている。
- 丸森町では、町内での子育て支援の実施事例を報告し合う運営会議を行っており、会議には同町町長・民生委員・同園園長ならび子育て支援事業専任担当・丸森たんぽぽこども園園長ならび子育て支援事業専任担当・同園運営法人会長・児童館代表・他保育所代表が参加し、また、実際の声を取り入れるべく利用者を招いている。
- しかし、上記会議もコロナ禍でメールのやり取りに留まっており、早い時期の対面での会議再開を目指している。

【子育て支援事業で大切にしている思い】

園の業務で学んだことを活かし、あたたかい愛のある空間をつくることを大切にしています。保護者の方が支援センターを利用することで、リラックスできたり「来てよかった」と思ってもらえる場であるよう心掛けています。